



▲リノベーション前のテナント
建物全体の構造、給排水や電気・ガスなど、経年による傷みが目立ち、既存のものそのままでは建物の持続、再利用が容易にできる状況ではなかった。



**昼間モタ方も夜も…「葎崎愛」で繋がる
多くの人にゆづりりと過ぎしてもらいたい。**

「街の記憶」を尊ぶ葎崎ならではの、昭和の青春時代を地元で過ごした人々も「アメリカヤ」の復活と同様に「アメリカヤ横丁」のオープンを喜んで「思い出一杯の建物が壊されなくてよかった」「無尽で集まった頃のように酔いしれたい」と祝いに駆けつけた。できるだけ多くの人にできるだけ多くの時間を葎崎で過ごしてほしいと思っている千葉さんは「ずっと地元商店街で営み続けてきたお店や宿、美術館などの公共施設にもこれを機会にどんどん足を運んでほしい」と呼びかける。

「葎崎っておもしろい所だよな！」という情報は既に駆け巡って、市外から訪れる人も増えている。葎崎駅からすぐの立地は、電車利用にもうってつけで、中央線沿線の小淵沢駅、長坂駅、日野春駅から乗車する北杜市の人たち、甲府駅方面から移動して来る人たちも集しやすい。

山梨県内で駅前周辺の町づくりのプロとして活躍する方も実際アメリカヤ横丁を見学に来て、千葉さんの手がける空き家活用の取り組みに共感。みるみるうちにバックアップ体制が整い、12月19日には葎崎が誇るプロアスリート・ヤマケンさんプロデュースの「ゲストハウスCHAO」も商店街にオープン予定とのこと。

そんな風に次々と「古き良き地域文化」を再生させていく千葉さんは「昔は『にんじん湯』っていうおばちゃんが入り込みで開いていた銭湯もあったそうで、いつか復活させたいですね。それからミニシアターもあつたらいいですよなえ」とさらなるエリア・リノベーション構想を口にしている。

きつと「それいいーそれ、すごいいいー！みんなのそんな声が集まって、いつの間にかまたその夢も叶っていくのだろう。」

**「リノベーションの街・葎崎」の視野で
「アメリカヤ」から「アメリカヤ横丁」へ**

葎崎のシンボルとして地域の人たちに愛されてきた「アメリカヤ」が復活したのは昨年の春。長らく使われずにいた5階建てのヴィンテージビルを当時の面影そのままに再生させたイロハクラフトの千葉健司さんはリノベーションにこだわってきた。

「何でもかんでもただ新しくきれいにしてしまえばいいというのではなく、その地域の歴史や文化を大事にしたい」という信念のもと「街の記憶を残す」取り組みを続けている。

「アメリカヤ」の次は「アメリカヤ横丁」という流れは、もともと視野にあったそうで、一つのビルだけでなく、周囲の風情ある元店舗や民家、やがては街全体をリノベーションしていく「エリア・リノベーション」の未来予想図を描いている。

**おもしろい人がおもしろい人を呼んで来て
夢や希望を口に出すと、たちまち実現する。**

それにしても、これほど早い段階で実現に至るとは千葉さん自身も思っていなかったという。築後70年経つ長屋は、傷みも激しく、取り壊さざるを得ない状況にあった。そのことを人伝に聞き、持ち主を訪ねたのが契機になった。その後、何度も足を運んで話し合いを重ね、自社責任で運営管理まで請け負う約束をしたところ、「アメリカヤ復活の実績があるイロハクラフトさんならお任せしましょう」と先方も信頼を寄せてくれた。「アメリカヤ横丁」の再生に着手した。

中に入る店舗はたった1ヶ月で決まったそうで「おもしろい人がおもしろい人を呼んで来てくれて」と嬉しそうに話す。特に、葎崎を盛り上げたい！という若い人たちの思いは熱く、その横の繋がりは実に頼もしい。これまでも彼等が主体となり、アメリカヤで「にらさき夜市」を開催した経緯もあり「夜に賑わう街は元気な街！」という実感が地域の人たちの間でも高まっていた。

「夢は胸の中で温めるのもいいけれど、口に出してみるものですね」と、そうしたみんなの協力や温かい励ましに千葉さんは深く感謝をしている。



巻頭特集

街のみんなの心に明かりを灯す

アメリカヤ横丁

NIRASAKI AMERICAYA YOKOCHO



(文・佐々木知勢子/写真・中嶋一)